メッセージ（祝辞）

仙台市長　郡　　和子

このたび、「仙台ターミナルケアを考える会」が設立 30 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

会長の吉永先生をはじめ、仙台ターミナルケアを考える会の皆さまにおかれましては、日頃より仙台市内はもとより、宮城県内の幅広い年代の皆さまを対象に、人類の永遠のテーマともいえる「人の生と死の意味について考える」セミナーの開催や、ホスピス入院患者、在宅患者・ご家族へのボランティア活動の支援など、30 年の長きにわたり活動いただいておりますことに深く敬意を表します。

昨今、団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年問題が叫ばれております。このような中、国においては、今後の多死社会の到来も見据えて地域包括ケアシステムを構築する必要があることや、ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）の概念を基礎とした研究・取組が普及してきていることなどを踏まえ、「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」を本年 3 月に改訂しました。

具体的には今後、介護施設や在宅における看取りが増えることを想定し、在宅医療や介護の現場で活用できるようにガイドラインの名称に「ケア」を加え、「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」とするとともに、医療・ケアチームの対象に介護従事者が含まれることの明確化や、ＡＣＰの取組の重要性を強調するなどの改訂が図られました。

仙台ターミナルケアを考える会の皆さまは、30 年も前から終末期の患者さんのＱＯＬの向上や、在宅医療の推進などにいち早く着眼され、その先見の明に改めて敬服する次第でございます。

本市においても、住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らしていくための体制づくりを進めているところですが、そのためには医療・介護の連携が必要であることはもちろん、市民の皆さまへ「生命の長さだけでなく、生活の質も大切である」というメッセージを発していくことも重要であると考えております。

本年 9 月には、仙台市医師会との共催により「終末期医療」をテーマにした市民向け講演会の開催を予定しております。この講演会では、「自分の死をどう迎えたいか」ということを直接市民の皆さまに問いかけ、108 万仙台市民の「終末期医療」に対する生の声に耳を傾け、今後の本市の施策に活かしていければと考えているところです。

本市は、仙台ターミナルケアを考える会の皆さまのご協力をいただきながら、地域包括ケアシステムの構築に向けまして、邁進する所存でございますので、引き続き、お力添えを賜りたく存じます。

結びになりますが、仙台ターミナルケアを考える会の益々のご隆盛と、会員の皆様のご健勝・ご多幸をお祈り申し上げまして、お祝いのメッセージといたします。